

千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

がんセンターニュース



第22号
平成24年8月22日発行
発行:千葉県がんセンター

理念

心と体にやさしいがん医療

私たちは、一人でも多くの千葉県民に、
質の高いがん治療を提供します。

もう一つの応援 患者や家族の方々の心を大切にしたい

事務局長 飯塚正志



千葉県がんセンターでは、県民の皆様、質の高いがん治療を提供しておりますが、あわせて、心のケアの面から、少しでも多くの患者さんや家族の方々に応援したいということで、看護局、事務局を中心に、年間を通して、様々なイベントを開催しています。

年中行事としては、3つの大きなイベントを開催しています。患者さんの想いを込めた紙ヒコーキが空高く舞う「紙ヒコーキ大会」、ラムネや飴細工などの出店や、太鼓、盆踊りなどで夏の夜を楽しむ「夏祭り」、そしてダンスや楽器演奏など、各病棟の医師・看護師が、趣向を凝らした出し物を披露する「クリスマス会」です。これらのイベントは、季節折々で患者さんに楽しんでいただけるよう、「ふれあい広場委員会」が企画・運営しています。仁戸名特別支援学校の先生方をはじめ、元患者さんや近隣の方々に支えられながら、毎年多くの患者さんに参加いただき、開始以来20年以上も続いています。

また、これらの行事の合間にも、コンサートなど、様々なイベントを行っています。

こちらは、「ボランティア支援室」が窓口となって、県内外の様々な分野の方々の応援のもと、実施しているものです。

昨年度は、海外で活躍する方によるメイクアップ講座、演歌や男声合唱団のコンサートなどを開催しました。今年度も、ジャズコンサートや、「がんセンターの歌」お披露目コンサート、演歌コンサートを開催したところであり、今後もバイオリンのコンサートなど趣向をこらしたイベントを開催していく予定です。

病院という非日常的な空間の中、少しでも患者さんや、家族の方々の心の支援ができるようこれからも、職員一同ちえをしぼって、小粒でもみなさんの心に残るよう、いろいろ企画していきたいと考えています。これからもご期待ください。

研究の現場から

国際小児がん学会最高賞 シュワイスグース賞を受賞

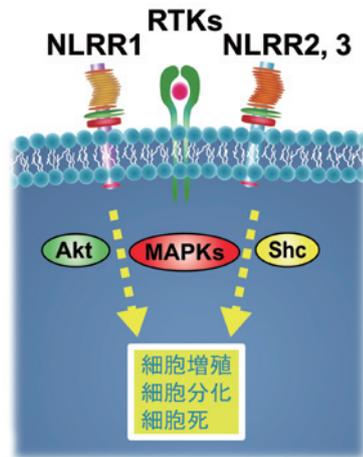
研究局 小児がん研究センター 高取 敦志

小児がん研究センターは、研究局（主にがん先進治療開発研究室）にて行われてきた研究プロジェクトを臨床への橋渡し研究（トランスレーショナル・リサーチ）を目指してさらに進めるために、一昨年に旧・遺伝子機能解析センターの場所に設置されました。当プロジェクトでは、代表的な小児がんである難治性神経芽腫の発生・進展に関わる遺伝子を同定し、それらの機能を明らかにすることにより、科学的知見に基づいた新しい治療法の開発を目指しています。

今回、研究プロジェクトを代表して、2012年の国際小児がん学会において高取が第27回シュワイスグース賞（Schweisguth Prize）を受賞することが決定しました。シュワイスグース賞は、小児がんの分野において、独自の視点に立った基礎研究や臨床研究等において顕著な研究業績をあげ、科学の発展に貢献した研究グループを代表する若手研究者に対して、国際小児がん学会から毎年1名に授与される賞です。我々の最近の研究成果である、神経芽腫の悪性化を決定する新しい遺伝子であるNLRR1の発見と、その発がんにおける役割の解明およびNLRR1を標的とした治療用抗体の開発の成果を認めていただいたことから、この度の受賞となりました。研究指導者は中川原 章センター長です。

このような研究の進展の背景には、千葉県がんセンターにおいてバイオバンクなどの研究基盤が充実しており、研究に適した環境が整っていることが挙げられます。

この機会をお借りしまして、千葉県がんセンターおよび皆様のご理解とご協力に深謝いたします。この賞を励みに、我々は今後も基礎研究に裏打ちされたトランスレーショナル・リサーチを着実に進めていきたいと考えております。



神経芽腫の発生と進展に関わるNLRRと受容体型チロシンキナーゼ (RTK) のシグナル



小児がん研究センターのメンバー

千葉日報社がん連載記事のお知らせ

千葉県がんセンターでは毎年、がん征圧月間である9月に、千葉日報紙のがんに対する特集記事に協力しております。今年は「高齢化時代のがん対策」をメインテーマに最新のがん診療についての連載記事が掲載されます。千葉県がんセンターの各科専門医、看護スタッフらが、がん医療への取り組みについてやさしく解説を致します。記事内容は「前立腺ロボット手術」「進化する大腸癌の化学療法」「高齢者がん患者さんのこころのケア」「がんは老化現象か?」「腹腔鏡で体にやさしい癌治療」「骨粗鬆症と間違えやすいがんの骨転移」「治療方法を共に考えるがん看護」など10本以上掲載の予定です。是非ご期待ください。

看護の現場から

新人看護職員の卒後臨床研修制度

看護副局長 金敷美和

2010年4月より看護の質の向上、医療安全の確保、早期離職防止の観点から新人看護師卒後臨床研修制度の努力義務化を受けて、厚生労働省から新人看護職員研修ガイドラインが作成されたことに伴い、当センターでも新卒新人看護師の教育体制の整備を行いました。現在当センターは在院日数が短縮され、入院中は治療期から終末期にかかる個別性の高い看護が求められています。今までは、新卒新人看護職員には業務を早く覚えてもらうことを目標にしていたのですが、現在は臨床看護実践を確実なものとし、看護職員としての社会的責任や基本的態度を習得することを目標に、卒後臨床研修を実施しています。基本方針の一つは、「医療チームの中で複数の患者を受け持ち、多重課題を抱えながら看護を安全に提供するための臨床実践能力を強化すること」であり、「基本的な看護技術を基に、段階を踏んで確実に知識・技術を取得したことを確認し、次の行為に自信を持って進めるためのシステム」です。

新卒の新人職員たちは、採用直後の1週間、センター内で集合的な採用者研修を受けます。その内容は、がんセンターの概要や看護師としての心構え、教育体制、勤務規程や電子カルテの取り扱い、がん疾患の特徴や治療・看護、医療安全、看護技術研修と多岐にわたります。中央での研修最終日に、配属先が発表され各所属に配置されます。4月には2回他の県立病院合同技術研修も開催され、県立病院の認定看護師から直接最新で高度な看護技術を取得できる研修もあります。

各所属に配属された新人看護師に、病棟でプリセプターと呼ばれる新人看護師の相談役と基礎看護技術の知識や技術の指導など実践面の支援を行う実地指導者の担当があり、所属の副看護師長や看護師長などもサポートしながら、新人看護師の育成を進めています。4月から6月までは2回/月のペースで集合的技術研修を行う他に、リアリティショックが高まりやすい時期にメンタルサポートに関する交流会も行っています。また10月には治療期から終末期における一連の看護の流れを知ることが目的とした見学主体の「院内留学研修」や、3月には2年目に向けて各技術の習得状況を確認するためのフォローアップ研修を行い、大事に新人看護師を育て成長を楽しみにしています。

がん予防展 がん講演会のお知らせ

がん予防展

日時：9月8日（土）・9日（日）午前11時より
場所：ユニモちはら台 1Fパークストリート
（市原市、京成千原線「ちはら台駅」下車 徒歩15分）
問い合わせ先：千葉県健康福祉部健康づくり支援課
（電話：043-223-2686） 参加無料

がん講演会

日時：9月9日（日）午後0時30分より
場所：ユニモちはら台 2Fユニモホール
（市原市、京成千原線「ちはら台駅」下車 徒歩15分）
演題：「知ってください、乳がん検診の大切さ
～笑顔でいるために～」
講師：橋本 秀行
（公益財団法人ちば県民保健予防財団 診療部長）
問い合わせ先：千葉県健康づくり支援課
（電話：043-223-2686） 参加無料
定員：150名（当日先着順）

「県民公開セミナー」 のお知らせ

毎年恒例の県民公開セミナーですが、今年は「抗がん剤治療の今日と明日」というテーマで行います。前半で「最善」の治療である標準的がん治療の紹介を行い、後半は「最新」の治療である治験がどのように行われ、どのように利用するかの紹介を行います。また外部講師として悪性リンパ腫の患者団体の代表であり、がん対策推進協議会の委員でもある天野慎介氏を招き「ドラッグラグ」についての講演をしていただく予定です。

抗がん剤はほぼ全てのがん患者がいずれかの段階で関わる可能性があるため、関心が高い領域です。より多くの方に興味を持って参加いただけるよう、皆様に関わる患者さん・ご家族にお知らせ頂ければと思います。

日時 平成24年10月21日（日）13:00 - 16:00
場所 京葉銀行文化プラザ6F 会議室
定員 380名（入場無料）

千葉県地域統括相談支援センター事業

—がんのピアサポーター養成と支援について—

地域統括支援センター 大西 眞澄

H23年度に千葉県がんセンターに委託された地域統括相談支援センターの主たる業務の一つが「ピアサポーター養成と支援」です。国の「がん対策の指針」に患者支援事業として公的に養成することが示され、この流れに沿うものです。

千葉県のピアサポーター養成の取組みは早く、H20年度から開始していました。H20年2月に「がん体験を医療に生かす小委員会（斎藤とし子さん、野田真由美さん）」から、養成講座の内容や修了生派遣事業のことが具体的に提案され、これが初回H20年度のピアサポーター養成の基礎となりました。

この流れを源に、今年度2回目の養成を計画・実施し、ピアサポーターの底辺の拡大に努めてまいります。また、初回受講修了者の方々の活動の場として「ピア・サポーターズサロンちば（がん患者さん相談会）」を隔月で開催しております。今年度後半に、各がん診療連携拠点病院「相談支援センター」の方々の協力を得てピアサポーターを派遣し、出張ピアサポート（相談会）を開催予定です。将来は、拠点病院で、患者さんがごく普通にピアサポートが受けられる環境が整えられたらいいなと思っています。

ピアサポーターは患者さんと同じ立場ですが、支えあうには支えるためのスキルが必要です。「体験」などを伝えたり、相手の悩みを的確に聞き取る「コミュニケーションスキル」と、相談者の不利益にならないように「基本的ながん医療の正しい知識」を身につけて、実践活動をすることになります。

『相手の話を十分に傾聴し、共に考え、学んだことを伝え、学習の手助けをする。必要な場合は自分の体験を伝えて参考にしてもらう。患者さんやご家族の疑問やつらさ、今後に対する不安、それらの思いを共感的に理解できる立場として心を支える』それがピアサポーターなのです。（NPO ミーネットがんサポート活動より）

最後に、千葉県がんセンター患者相談支援室は、下記の各種患者サロンを支援しており、地域統括支援センターも共に協力し、連携していきたいと思っております。

- ①患者サロン（音楽療法や勉強会を織り交ぜたサロン）
- ②がんの種類別サロン（悪性リンパ腫）
- ③オレンジティの出張おしゃべりルーム in 千葉（婦人科がん）

がんセンターニュース バックナンバーのお知らせ

千葉県がんセンターニュースは、当センターが独自に発行している機関紙です。がんの最先端技術や最新の治療法の研究など様々な情報を皆様にお届けしています。

これまで「臨床の現場」では、がんの治療における当センター独自の診断・治療法を、また「研究の現場」では、臨床に直結するがんの最新研究を、さらに「看護の現場」では患者さんが安心して治療をうけていただけるような様々な看護サポートについてそれぞれ紹介してきました。バックナンバーはホームページ上で閲覧可能です。また、ホームページには、当センターの診療内容、診療を支える部門の紹介、受診方法などについて、いろいろな情報をわかりやすく掲載しておりますので、ぜひご覧ください。ホームページアドレスは <http://www.chiba-cc.jp/index.html>。または、

がんセンターニュース でWeb 検索



ご交通案内の



JR千葉駅から 所要時間:約25分

千葉中央バス: 誉田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由) 行乗車・千葉県がんセンター前下車



JR鎌取駅から 所要時間:約13分

千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車



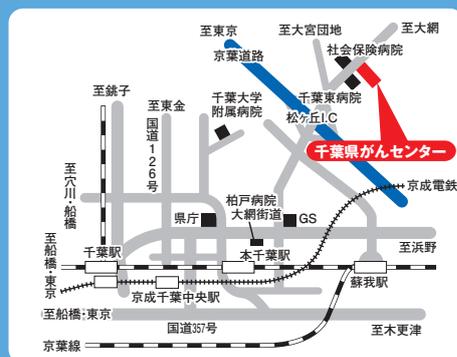
JR蘇我駅から 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車



松ヶ丘I.Cから

大網街道を大網へ向かって約2km右側



千葉県がんセンター

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680
<http://www.chiba-cc.jp/>